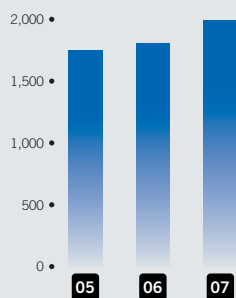


## 営業の概況

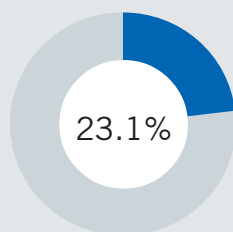
### 電子素材部品部門

#### 電子材料

売上高推移  
(億円)



売上高構成比  
2007年3月期

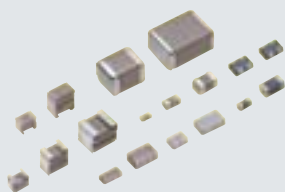


当製品区分は「コンデンサ」、「フェライトコア及びマグネット」の2つで構成されます。

当製品区分の売上高は、1,992億43百万円(前期1,807億66百万円、前期比10.2%増)となりました。

「コンデンサ」:売上高は前期比で増加しました。主要品目である積層セラミックチップコンデンサの増収が要因です。主に、PC、薄型テレビ向け販売が好調でした。

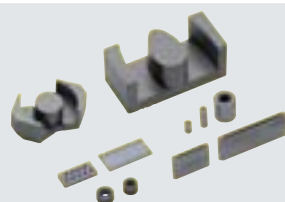
「フェライトコア及びマグネット」:売上高は前期比で増加しました。フェライトコアは一部製品の終息に伴い微減となりました。マグネットは増収となり、その要因として、フェライト磁石は円安、金属磁石はHDD(ハードディスクドライブ)の生産増があげられます。



#### コンデンサ

電気を蓄える機能を持った回路素子で、セラミックス誘電体と内部電極となる金属とを交互に積層し、焼成したものです。

小型で高周波特性が良いため、携帯電話や薄型テレビなどに大量に使用されています。



#### フェライトコア

酸化鉄にマンガン、ニッケル、亜鉛などを配合して焼結した酸化物系磁性材料です。

高周波での損失が少ないため、電源回路のトランスやコイルなどの磁心に多用されています。



#### マグネット

当製品は大きくフェライトマグネットと希土類マグネットで構成されています。

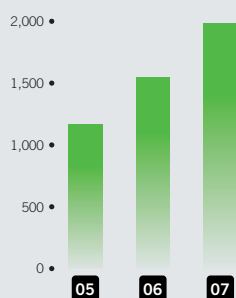
フェライトマグネットは、酸化バリウムや酸化鉄を主成分とする原料を成型して焼結したものです。

希土類マグネットは、サマリウムやネオジムなどの希土類元素と鉄を主成分とする永久磁石です。

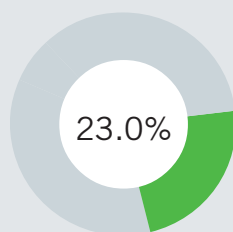
## 電子素材部品部門

### 電子デバイス

売上高推移  
(億円)



売上高構成比  
2007年3月期



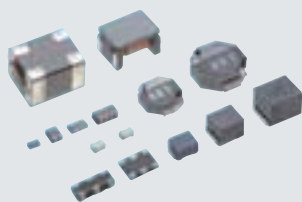
当製品区分は「インダクティブ・デバイス」、「高周波部品」及び「その他」の3つで構成されます。

当製品区分の売上高は、1,981億99百万円(前期1,546億80百万円、前期比28.1%増)となりました。当製品の大幅増収の要因は、デンセイ・ラムダグループが前期下期から新たに連結対象となったことです。なお、既存事業のみの前期比較でも増収を達成しました。

「インダクティブ・デバイス」:売上高は前期比で増加しました。携帯電話及びHDD向け電源系コイルの販売が増加したことが主な要因です。

「高周波部品」:売上高は前期比で減少しました。販売数量の減少と売価下落が主な要因です。

「その他」:売上高は前期比で増加しました。センサ・アクチュエータは売価下落により売上高がわずかに減少しましたが、電源製品がその影響を吸収して増収となりました。

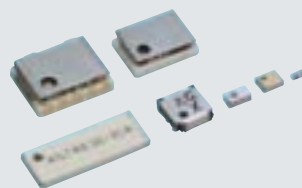


#### インダクティブ・デバイス

当製品は大きくコイル(インダクタ)、EMC対策部品で構成されています。

コイル(インダクタ)は、フェライトコアに導線をらせん状に巻いた巻線タイプ、印刷工法によってパターン形成した積層タイプのほか、薄膜形成技術によりパターン形成した薄膜タイプがあります。

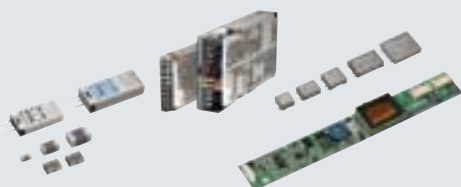
EMCとはElectromagnetic Compatibilityの略で、電子機器から発生する電磁ノイズの問題を解決するための電子部品がEMC対策部品です。



#### 高周波部品

主に携帯電話などの高周波回路に使用される部品です。

アイソレータ、VCO、ダイプレクサなど、多種の製品を取り扱っています。



#### その他

当製品は、大きくパワーシステムズ、センサ・アクチュエータで構成されています。

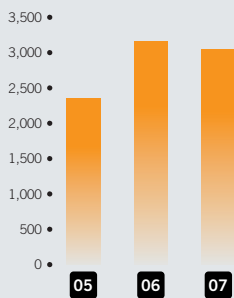
パワーシステムズには、交流(AC)入力を直流(DC)出力に変換するスイッチング電源、逆に直流入力を交流出力に変換するDC-ACインバータ、直流電圧の昇降圧を行うDC-DCコンバータ、そして交流電圧の昇降を行うトランスがあります。

センサ・アクチュエータには、静電気対策に有効なバリスタ、温度・湿度・トナー濃度などを測定するセンサ、圧電プザーに代表されるアクチュエータが含まれます。

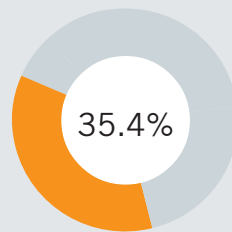
## 電子素材部品部門

### 記録デバイス

売上高推移  
(億円)



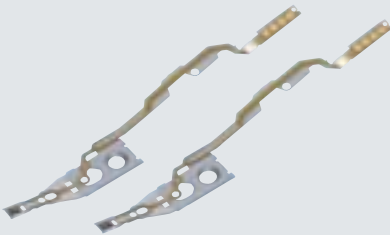
売上高構成比  
2007年3月期



当製品区分は「HDD用ヘッド」、「その他ヘッド」の2つで構成されます。  
当製品区分の売上高は、3,048億22百万円(前期3,159億28百万円、前期比3.5%減)となりました。

「HDD用ヘッド」:売上高は前期比で減少しました。HDDはPC向けの伸びに加え、その他の民生用機器への搭載も広がり、生産台数が増加しました。その結果、当社グループのHDD用ヘッドの販売数量も増加しました。しかしながら、HDDメーカー間のシェア争いに起因するHDD用ヘッドに対する値引きの影響を大きく受け、増収を確保することはできませんでした。

「その他ヘッド」:売上高は前期比で減少しました。



#### HDD用ヘッド

HDD用ヘッドは、HDDにおいて信号をハードディスク(メディア)に書き込んだり読み出したりするものです。

記録密度の向上に伴い、読み出し用のGMR (Giant Magnetoresistive) 素子は、より高感度のTMR (Tunneling GMR) 素子に置き換わりつつあります。また、垂直記録対応ヘッドも徐々に増えています。

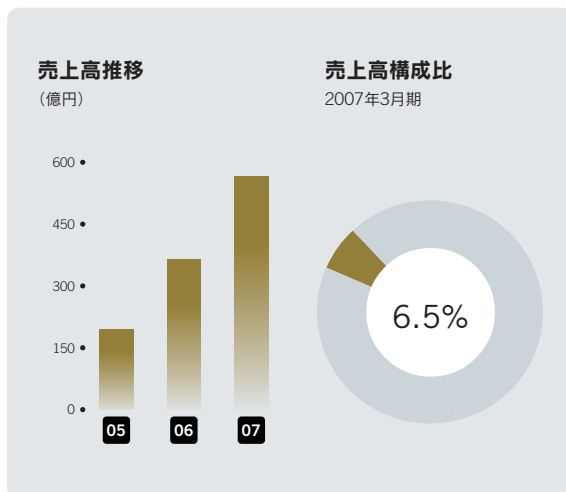


#### その他ヘッド

DVDやCDの読み書きに使用する光ピックアップ、サーマルプリンタに使用されるサーマルヘッド、フロッピーディスクドライブに使用される磁気ヘッドがあります。

## 電子素材部品部門

### その他電子部品



当製品区分は前述した3区分以外の電子素材部品部門すべての製品を含みます。代表的な製品は<有機ELディスプレイ>、<電波暗室>及び<メカトロニクス(製造設備)>等です。

当製品区分の売上高は、565億57百万円(前期363億76百万円、前期比55.5%増)となりました。

有機ELディスプレイやメカトロニクス、その他の新製品の販売が増加したことが要因です。

#### 有機ELディスプレイ

電流を流すと自ら発光する有機材料を利用したディスプレイです。

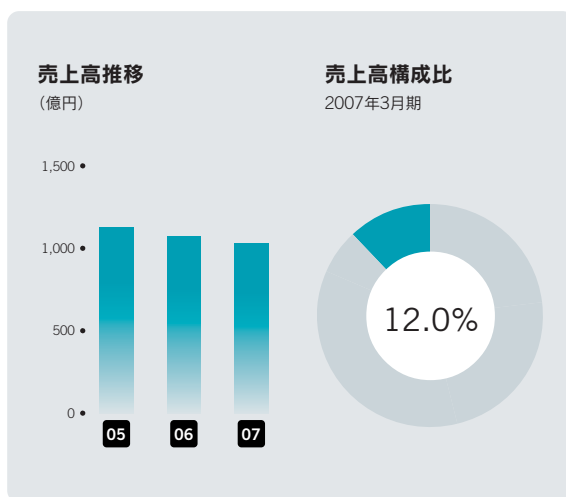
#### 電波暗室

電磁波ノイズの測定のため、外部から遮断された電波環境を設定する構築物です。

#### メカトロニクス

外販用の製造設備です。半導体製造工程で使われる「ロードポート」や「フリップチップボンダ」などがあります。

## 記録メディア製品部門



当部門は「オーディオ・ビデオテープ」、「光メディア」及び「その他」の3つで構成されます。

当部門の連結業績は、売上高1,032億4百万円(前期1,074億30百万円、前期比3.9%減)となりました。

「オーディオ・ビデオテープ」:売上高は前期比で減少しました。依然高い市場シェアを維持していますが、需要が縮小していることが最大の減収要因です。

「光メディア」:売上高は前期比で増加しました。CD-RとDVDの単価は引き続き下落しているものの、販売数量の増加に伴い増収となりました。

「その他」:売上高は前期比で増加しました。コンピュータ用データストレージテープのLTO\*(Linear Tape-Open)が、需要増に伴い増収となったことが要因です。

#### 光メディア

一度だけ記録ができる追記型CDのCD-Rや、同じ直径12cmのサイズで記憶容量がCDの約7倍(4.7ギガバイト)のDVDがあります。また、次世代の光メディアのひとつであるブルーレイディスクも製品化しています。

#### その他

急激に増大する電子情報を保存するためにLTO(Linear Tape-Open)と呼ばれる規格のデータストレージテープを製品化しています。

\*Linear Tape-Open, LTO, LTOロゴ, Ultrium, Ultriumロゴは、Hewlett-Packard Company, IBM Corporation, Quantum Corporationの米国及びその他の国における商標です。